

MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第57号 2023年10月

近況報告 一條 美智子・泉 浩二・渡辺 正春・林家 カレー子
川真田 直之・昆野 俊男・井田 秀明
新入会員紹介 山田 満喜男



自宅で咲かせたカトレア類洋蘭 (写真提供 川真田)

近況報告

一條 美智子



コロナ下ふと気づいたら何もかもが変り、年のせいだけにできないトラブルが日常茶飯事。人とのかかわりを省いた簡略化で言いようのないストレスが急

増しました。些細なこともチャット・メール媒体での問い合わせ。益々ハートtoハートは空のかなたへ。

それでも「全国割り」はちゃっかり利用しました。合間を縫ってマメに小旅行。ちなみに別府で温泉。日南海岸で青い海を満喫。沖縄ではこどもの様に膝まで海水につかり日焼けもいとわず水遊び。一人旅というところが唯一残念。

もちろん生業の仕事、環境活動も「ボケ防止」口実にこなしています。

姥捨て山間近に精一杯抵抗「頑張るべきでない自然受け入れ」に逆らい見栄を張っての日常です。いつまで頑張れるのか。大きな課題です。これを機に皆さんから元気をいっぱい頂きたいと願っています。

泉 浩二



MECCでは「家庭での環境取組」として、太陽光発電と節電による電力自給、太陽熱・井戸水利用、生ごみの計量と自家処理等自然の恵みを活かす取組をしています。事

業者部門では、EA21 審査員を10年以上続けてきましたが2022年12月にて返上しました。

なお、環境省モデル事業「ソーラーコミュニティ電力融通実証実験」に参加し終了後もモニター機器による発・売・買・消費電力計測を続けています。

その他の活動としては、エコロジカルフットプリント指標による「診断クイズ開発」、エネルギーと食料の市町村別自給率(永続地帯指標)試算の取組に参画しております。また地元の東村山では生ごみたい肥化によるごみ減量推進に係る団体に所属しておりいずれも10年来の活動として引き続き活動中です。

上記のうちMECC、エコロジカルフットプリントジャパン(EFJ)、永続地帯研究会での取組はHPにて

ご覧いただけます。一度アクセスしてみてください。

話はそれますが、かつて家族6人で訪れた尾瀬に、20数年ぶりに3人で日帰り(弾丸ツアー?にて原の入口付近だけ)ですが行ってきました。今回は下見として、再度家族連れだっってゆっくり行きたいものと考えています。



渡辺 正春

2020年6月にエーゲ海とアドリア海を巡るクルーズに予約していたのですがダイヤモンドプリンセス号の船内で新型コロナウイルス感染者が多数出たことに端を発し、あっという間に世界中で感染が拡大してしまいキャンセル。感染が始まった初期に2人の友人を失ったため、国内旅行おろか家に引き籠り、時々市内や近隣の史跡などを徒歩で巡る生活が3年間続きました。

仕事の方は全てリモートワーク。「(一社)日本バルブ工業会」で環境関係の顧問をしていますが、現在2つの大きな問題を抱え、苦心しています。

一つ目は、「カーボンニュートラルに向けた脱炭素経営推進」ですが、会員企業の多くが中小企業であるため、如何に取り組んでもらうかと言う問題。

二つ目はPFOAやPFOSなどのPFASs(パーないしポリフルオロアルキル物質)の規制対応。特にEUがふっ素樹脂やふっ素ゴムも含めた10,000種類もの化学物質を一律制限すると言う提案を行っている問題。ふっ素樹脂やふっ素ゴム自体に毒性は有りませんが、原料や分解物に有害性の疑いが有ると言う理由で規制提案していますが、規制がふっ素樹脂にまで及ぶため、半導体工業、医療産業、自動車産業など国内外で大問題となり原料メーカーと共に懸命に対応中です。



環境カウンセラーとしての近況

林家 カレー子



毎年、台東区からの依頼で、区内の小学校へ「環境・ゴミ減量リサイクル講演会」に、対象は環境を学び始める4年生!! 今年は6月2校、7月3校、

併せて301名の生徒さんです。因みに「台東区育英小学校」「平成小学校」「大正小学校」「東京小学校」「黒門小学校」の5校です。

又環境問題をテーマに永年続けてきました環境寄席は防災も加え、新たに「ど根性ひまわり環境寄席」として4月27日第2回目を開催。650名の市民の皆様楽しんで頂きながら、身近な環境問題の啓発をさせて頂きました。

これからも楽しく発信して行きたいと思っております。

地域連携に向けた近況

川真田 直之



昨年4月から、健康を兼ねて散歩していた玉川上水の南側に、「みのり村」と言う講義を受けながら体験農場の出来る農場を借り、

自産自消の野菜を栽培してSDGsを実践しているつもり。各種トマト類、ピーマン類、インゲン類、枝豆類、キュウリ、茄子、スイートコーン、白菜、二十日大根、小松菜、水菜、カブ、大根、ワケギ、春菊、サンチュ、チンゲンサイ、ほうれん草等を栽培し食べきれない程でした。

また1昨年从小平市の市民版環境配慮指針リニューアルプロジェクトに参加し、これを完成させて、ささやかではあるが社会貢献をしたつもり。

更に昨年から本年に掛けてMECCが対象とする26自治体の内、16～19自治体の環境部門に対し、前後2回の環境カウンセラーのPR活動を行った。はじめは「MECC創立20周年記念誌」と「MECCだより」及び「EA21のパンフレット」を説明しながら直接手渡し、その後ほぼ同じ自治体に対し、環境カウンセラー全国連合会の依頼で、「環境カウンセラーの利活用促進」の

パンフレットを基に内容説明を行うとともに、「環境カウンセラー募集ポスター」の役所内掲示をお願いする活動を行った。

各自治体の環境カウンセラーに対する認識は様々であったが、概して認識は低いようで、今後は出来るだけ会員が近隣も含めて、自治体の活動に参加したり、対話したりするような密なコンタクトをとる活動が望まれます。

EA21 認証・登録のための有償コンサルの紹介



昆野 俊男

我々 EA21 審査員は普段、審査が主体ですが、EA21 の普及活動も心がけています。普及活動としては、

皆と共同で実施する企業主体のグリーン化プログラム (GP)、自治体主体のイニシャティブプログラム (IP)、地域事務局主体のアクセラレーションプログラム (AP) があり、それぞれでその機能を有効活用されています。今回は、個人レベルで EA21 認証・登録のために数回実施した EA21 の有償コンサルを紹介します。

EA21 認証・登録のために有償のコンサルを希望する事業者はなるべく早く認証・登録を取得して自治体等の入札制度の加点を期待しており、建設関係等の事業者からは予定通りのスケジュールが求められます。従って、事前確認では EA21 認証・登録のための訪問支援計画概要及びコンサルによる認証・登録までの標準的な工程表と見積書をつくり、同意をいただいた上でコンサルを実施することにしています。

訪問支援計画は通常の団体講習会と同様にガイドラインに基づきステップを踏んだ項番ごとの説明と、次の月に成果物(文書類)を検証するシステムを取っています。また、訪問支援中だけでなく、電子メール等で質問等への対応、作成文書類等の確認もきめ細かく行うようにしています。

私の支援計画で特徴的な事は支援計画の中に3ヶ月の運用期間が入りますが、中月(2ヶ月目)は訪問支援を実施しない月にして実施・運用に専念してもらうようにしています。ただ、全体的に遅れているときには、その月を使用して遅れを取り戻し、有効活用している時が多いです。その場合に、遅れた責任は支援した審査員にもあると考え、その間のコンサル料はいただかないことにしています。

もう一つの特徴的な事としては、第3回までに主な文書類が出来上がりますが、それを一般教育テキストのパワーポイントにまとめ挙げて環境教育テキストとして使用してもらうようにしています。これにより、全ての従業員に一般教育を受ける機会を与えることになり、コンサルした事業者からも喜ばれています。

有償でコンサルを受ける事業者は同じ内容でも無償に近い事業者よりは切実感があるようで、決められた5～6回のコンサルで終わるところが多いです。

ただ、最後のコンサルでは成果物(文書類)の確認を行います。自分が指導した結果が鏡に映し出されることになり、反省点も多くあり、次へのステップの糧とさせていただきます。

登録審査申込書を出す段階ですが、よくできていると思われるので「すぐ地域事務局に出してください」と言っても、大抵の事業者は2週間～1ヶ月ぐらい様子を見る事業者が多いです。それだけ初めてのEA21の認証・登録がプレッシャーになっているものだったことが確認でき、丁寧な説明が必要なことを痛感させられました。コンサルした事業者はコンサル終了後、順調にいけば3ヶ月ぐらいで認証・登録されますが、風の便りで認証・登録されたことを聞くと、肩の荷が1つ下りたように感じますし、継続的改善として次のSDGs等の段階に進むことを期待しています。

新入会員紹介

山田 満喜男 さん

相模原市在住の山田と申します。毎日、野鳥の姿を求め双眼鏡を首から下げて散歩しています。私は文章を書くのが苦手であったため理系を選択し製造会社に就職しました。最初はエンジニアとして新しいレンズ開発等を行ってきましたが、20年ほど前からISO審査や製品含有化学物質調査、LCA等の環境関連業務の担当となり今に至っています。現在は主に海外の環境法規制の調査&対応をしていますが、定年再雇用も残りわずかとなってきました。今後はEA 21活動に注力していきたいと思えます。引き続き皆様のご助言、ご指導をよろしくお願ひします。



井田 秀明

八王子市は6月第1日曜日に市民を対象にした環境フェスティバルを行っています。今年は3年ぶりに開催さ

れましたのでその様子を報告します。

昨年までは八王子市温暖化防止活動推進員として、八王子市が作った省エネハンドブックを例にして、会場で啓発や意見交換をしてきました。今年は緑地保全団体のメンバーとして、森のペンダントなどの小物、鍋敷き、竹炭、バードコールやハト笛などを広げて里山保全活動を紹介しました。

今年は初めてバードコールとハト笛の手作り講座を担当です。ハト笛を鳴らすと小学生位のお子さんが何人か参加をしてくれました。作業は準備したしの竹と吹き口を材料として選んでいただき、しの竹をナイフで削って、笛本体と吹き口を瞬間接着剤で固定する簡単な作業ですが、ナイフを使ったことが無い子が多いので、自分が作るようになります。

参加者が選んだ笛本体と吹き口の位置を合わせて接着するのですが、完成品はハト笛の音が出てお子さんが納得してくれます。作成する要領を得るまで数本を無駄にしましたが、参加者の皆さんは喜んでくれました。こんな簡単で短い作業時間ですが、お母さんやお父さんと里山保全や温暖化対策について交流が出来たのは成果と思います。



編集後記

ここ数年にわたり対面で会う機会が少なかったため、今号から数回にわたり、皆さんの近況を報告して、会員相互の状況をお互いに知り合うことにより少しでも相互の親交を深めるために、出来るだけ多くの皆さんに投稿をお願いすることにします。

発行者：NPO武蔵野多摩環境カウンセラー協議会(MECC)事務局
〒180-0011 東京都武蔵野市八幡町3-1-1 理事長 井田 秀明
TEL：042-652-3726
連絡メール：mecc-home@mecc.or.jp
ホームページ：http://www.mecc.or.jp/
編集者：川真田 直之